

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

No.152

2022 年 6 月



事務局：〒604-8165 京都市中京区室町通三条下ル烏帽子屋町 493

医療法人博友会 相談支援事業所むろまち 気付

電話/FAX：075-748-1507

Mail： office@kyo-psw.org

HP： <https://www.kyo-psw.org>

【第 22 回（2022 年度）京都精神保健福祉士協会 総会記念講演会】（2 回目のご案内）

主催：京都精神保健福祉士協会 協力：（公社）日本精神保健福祉士協会京都府支部

日 時：2022 年 7 月 3 日（日）13：30～16：00

方 法：Zoom オンライン・ミーティング

テーマ：「これからの精神医療を考える ～精神保健福祉士の歩む道」

講 師：氏家 憲章 氏（元・社会福祉法人：うるおいの里 理事長）

今年 8 月に障害者権利条約の対日審査がスイスのジュネーブで実施される予定です。

日本が権利条約に定められた障害者の権利を保障しているのかが国際的に問われる大きな節目を迎えようとしています。とりわけ精神科医療において精神保健福祉士がどのような役割を担っていくのか、その本質が問われる時代がすぐそこまで来ているのです。

日本は 2014 年に条約を批准し、2016 年に国連・障害者権利委員会に報告書を提出。その後、2019 年に障害者権利委員会から日本政府への事前質問事項が届き、日本障害フォーラム（JDF）が 2019 年と 2021 年の 2 度にわたりパラレルレポートを障害者権利委員会に提出するなど、対日審査（建設的対話）に向けた活発なやりとりが交わされてきました。

一方、国内の精神保健福祉の重要なトピックスとして、2021 年 10 月に日本弁護士連合会が人権擁護大会決議で強制入院廃止の方向性を打ち出したことがあげられます。

また、同時期に厚労省では「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」が設置され、2021 年 3 月「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」報告書を踏まえた積極的な議論が展開されてきました。

3 月には厚労省が「強制入院制度の縮小を検討し、廃止も視野に入れる」と報道されましたが、その後、政治的な揺り戻しがあったようです。

今後、検討会の報告書がどのようにとりまとめられるかが鍵となりますが、5月30日に公開された報告書案では「障害者権利委員会からは、医療保護入院等の強制入院の撤廃等に関する事項について、事前の情報提供が求められている」と書かれており、強制入院制度が対日審査での焦点でもあることが伺えます。

今年度の記念講演会は、上記のように障害者の権利保障を確立するための国際かつ国内での総括的議論の過程での開催となります。

講師に精神科病院での現場実践や労働組合、病院経営等の経験豊かな氏家憲章氏をお招きし、「これからの精神医療を考える ～精神保健福祉士の歩む道」をテーマに、精神科医療の歴史的経緯と現状分析、今後の道筋と改革の展望についてご講演いただきます。

私たち精神保健福祉士がソーシャルワーク専門職として、「社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する実践」を続けていくためにはどうすればよいのか、ともに考えたいと思います。

※著書『精神医療は変わるし変えられる～その道筋と改革の展望』麦の郷印刷, 2022年

【6月例会のご案内】

テーマ： 中堅だって悩むんだ！集え！！中堅ソーシャルワーカー！！

後輩・人材育成、実習指導の悩みを分かち合う

日時：2022年6月30日(木)19:00～21:00 (入室開始：18:30～)

場所：ZOOM・オンライン・ミーティング

参加費：無料 事前申込が必要です(申込み期限：6月23日(木)まで)

初任者期間を終え、いつの間にか中堅と呼ばれる経験年数になっていたあなた。後輩・人材育成、実習指導担当になることが増えてきたのではないのでしょうか。「今さらこんなこと聞けないし・・・」や「もっと勉強しておけばよかった」と悩まれる方々もおられるかもしれません。

今回は中堅ソーシャルワーカーで集まり、繋がっていける企画を立ち上げました。冒頭の内容の他にも中堅ならではの共通話題や悩みがきっとあることでしょう。そんな、分かち合いの場の機会となればと考えています。みなさまのご参加を是非お待ちしております。

※中堅向けの企画ですが、「中堅の位置で業務をしている」という方でもOKです。目安としてはソーシャルワーカー経験10年以上を想定しています。

Google 申込フォーム (QR コード付)

<https://docs.google.com/forms/d/1ZAAFyoDFUUr2VPDTkC-wMqlYMgmwSSvJqQTxB5JYw2o/edit>



※後日 mail にて ZOOM ID をお知らせいたします。

【「世界ソーシャルワークデイ 2022」記念イベント報告】

主催：京都精神保健福祉士協会・京都社会福祉士会・京都医療ソーシャルワーカー協会

テーマ： 「ハンセン病問題はまだ終わっていない」

～適切な医療・介護を提供するために～

講 師：宮良 正吉 氏（ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会）

コーディネーター：加藤 めぐみ 氏（ハンセン病回復者支援センター）

日 時：2022 年 3 月 26 日（土）15：00～17：00

方 法：オンライン集会（Zoom ミーティング）

参加者：約 50 名

コロナ禍の中、京都社会福祉士会及び京都医療ソーシャルワーカー協会と共催で「世界ソーシャルワークデイ 2022」記念イベントをオンライン形式で開催しました。

テーマは「ハンセン病問題」。熊本地裁での 2001 年国賠訴訟や 2019 年ハンセン病家族訴訟の原告勝訴によりハンセン病問題は解決したと受けとめている方もいると思います。

しかし、今回の研修を通じて、ハンセン病回復者や家族の権利回復及びサポートは、法律上も、社会的にも十分とは言えず、差別や偏見が根強い現状を再確認した次第です。

私たち精神保健福祉士が「ハンセン病問題」の本質を理解し、問題解決に向けた社会変革の一翼を担う使命を担っていることを改めて確認する機会となりました。

【報告】加藤めぐみ 氏（ハンセン病回復者支援センター）

コーディネーターの加藤氏からは、日本の近代ハンセン病対策が 89 年という長きにわたり「絶対隔離絶滅政策」をもとに、深刻な人権侵害を続けてきたことが報告されました。

日本政府は、感染力の極めて弱いハンセン病を「優生思想」や「社会防衛思想」のもとに「恐ろしい伝染病」だと間違った情報を国民に流布し、官民一体となってハンセン病患者を強制隔離し、家族を社会排除してきました。とりわけ 1930 年～1960 年代ま

で続いた「無らい県運動」により強制隔離や権利侵害、社会的排除を加速し、差別や偏見を助長しました。

加えて、ハンセン病療養所では入所者への断種や堕胎を行い、子どもを産み育てることを奪い、人としての尊厳を根幹から傷つける権利侵害の実態が報告されました。

これらの人権侵害は、熊本地裁判決では「患者は隔離し、地域社会から排除すべき存在との偏見を作出・助長し、患者・元患者に『人生被害』を与えた」と指摘され、国の責任を根本から問う契機となりました。

現在、ハンセン病回復者と家族は、日々の暮らしの中で差別や偏見に直面している実態があり、ソーシャルワーカーとして回復者と家族へのエンパワメント支援が重要であり、「ハンセン病問題はまだ終わっていない」と報告を締めくくられました。

【ビデオ映像】DVD「地域で生きる」視聴（30分）

ハンセン病回復者支援センター制作のDVD「地域で生きる」を参加者全員でオンライン視聴。森敏治氏（79）は、ハンセン病療養所を26歳で退所後、一人暮らしを続けておられ、様々な困難を乗り越えながら地域生活を続けてきました。加齢とともに後遺症や合併症が進行し、日常生活に医療と介護、生活支援が必要な心身の状態です。

しかし、限定的な介護保険サービスの問題に直面し、ハンセン病回復者への適切な医療と介護の提供が求められています。

ハンセン病問題基本法では、「国及び地方公共団体の責務」とされていますが、問題解決には至っておりません。森氏の地域で最後まで生きようとする姿勢と「普通の生活を望んでいるだけなんです」という発言が強く印象に残るドキュメンタリーでした。

【体験談】宮良正吉氏（ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会）

「誤った国の絶対隔離政策で人生被害 ～私の体験から」をテーマにハンセン病回復者宮良氏による体験談が報告されました。宮良氏は石垣島の出身。1956年4月、10歳の時に沖縄愛楽園に収容されました。正門の横にある試験室で受診。部屋にはホルマリン漬けになった胎児の標本が置かれており、「許可なき者立入禁止」との立看板もあり、収容所だと感じたそうです。（戦前・戦中は「逃走者は死刑に処す」との立看板）

愛楽園では、特効薬のプロミンによる治療が取り入れられており、ハンセン病は数年で治る病気となっていました。米軍による統治時代、日本の「らい予防法」を踏襲しただけの隔離収容政策下にあったとのこと。

宮良氏は、時代を遡り第2次世界大戦下の沖縄愛楽園の状況を語られましたが、終戦間際の1年間で強制労働と栄養失調、マラリアによる死者数が287人に上ったということでした。

また、終戦後、医師の早田園長が「ぼくは救ライに大きな功績を残した。なぜかという救ライはライを撲滅することだから、患者を一人でも多く殺すことは救ライにつな

がっているんだ。ぼくは任期中に何百名か殺した。だから勲章もんだ」と語ったエピソードを紹介されました。

この早田園長の言葉、すなわちハンセン病患者の命を奪うことが医師の責務と言わしめる我が国の法律や「絶対隔離絶滅政策」は、ナチスの強制収容所となんら変わらないと思うのは私だけではないでしょう。

その後、時間超過のため、宮良氏の体験談は最後まで聞くことができませんでした。残念でなりません。

【共同宣言】三協会会長による共同宣言

知名会長による感動的な閉会スピーチがなされた後、三協会会長による「2022 年世界ソーシャルワークデイに際して」が宣言されました。戦争という人類最大の人権侵害に対して、即時停止を求め、いかなる権利侵害を認めず、すべての人々に支援を行う決意を表明する内容です。

【後日談】

さて、5月中旬「全国のハンセン病療養所の入所者が 927 人となり 1000 人を切った」という報道がなされました。入所者の平均年齢は 87.6 歳、地域で暮らす回復者の平均年齢 70 歳代後半という現状から考えて、日本社会に残された時間はわずかであることがわかんと思います。

折しも世界ソーシャルワークデイ 2022 のテーマは「新しいエコ・ソーシャル世界の共同構築：誰一人も取り残さない」です。ハンセン病問題を過去の問題として回復者や家族を取り残すことなく、ソーシャルワーカーとして、いま何をすべきかが問われています。

【ご案内】オンデマンド配信

「世界ソーシャルワークデイ 2022」記念イベントは、5 月 9 日～8 月 9 日まで下記リンクで記念イベントの動画がオンデマンド配信されています。まずはご視聴いただき、ハンセン病問題の歴史的背景と当事者の体験談を受けとめていただければと思います。

2022 年世界ソーシャルワークデイ（オンデマンド配信）

「ハンセン病問題はまだ終わっていない ～適切な医療・介護を提供するために」

URL : <https://vimeo.com/707447816/b783299a89>

※本動画は会員のみ期間限定で視聴できるようになっています。第三者への動画リンクの提供やメールの転送はしないでください。

【追記】ハンセン病問題学習会へのお誘い

ハンセン病問題に関心のある方を対象に継続的な学習会を企画しています。現在、本

協会と京都社会福祉士会、京都医療ソーシャルワーカー協会の有志で計 14 名のソーシャルワーカーが参加を希望されています。関心のある方は、下記までメールで「氏名、ご所属、メールアドレス」をお知らせください。今後、企画される学習会のご案内をお送りします。

担当：泉 洋一 y-izumi@bukkyo-u.ac.jp

(ソーシャルワーカー育成検討委員会：泉 洋一)

【3 月協力研修報告】

(公益社団法人日本精神保健福祉士協会京都府支部協力研修)

テーマ：「社会的孤立・排除を生まないソーシャルワークのあり方を考える
～子ども・若者へのアウトリーチ（訪問支援）と
重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチを通じて～」

講師：谷口 仁史 氏

(認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事
前さが若者サポートステーション総括コーディネーター

佐賀県子ども・若者総合相談センター長

佐賀県ひきこもり地域支援センター「さがすみらい」センター長)

日 時：2022 年 3 月 20 日（日）14:00～16:45

場 所：Zoom によるオンライン研修

参加者数：27 名（講師除く）

3 月 20 日、佐賀県で子ども・若者へのアウトリーチ（訪問支援）に取り組まれている谷口仁史氏を講師に招き、「社会的孤立・排除を生まないソーシャルワークのあり方を考える」をテーマに研修を行いました。毎年一回開催している日本精神保健福祉士協会京都府支部との協力研修会です。運営委員を含めて 27 名の方が参加しました。

谷口氏は 102 枚にも及ぶ大部の資料で、まずは統計データを元に日本における「社会的孤立」の深刻さを浮き彫りにしていかれました。いじめ問題、虐待問題、非行等々の多くの問題を抱える日本は諸外国と比べ社会的孤立の状況にある人や孤独を感じている子どもの数が際立って多い状況にあります。それにも拘らず従来型の取り組みの多くは「来ることを待つ施設型支援のみで、それでは社会的孤立・排除を防ぐことはできない。本来支援が必要な若者にアプローチできていない」と指摘されました。

谷口氏が立ち上げた「NPO スチューデント・サポート・フェイス（以下、S.S.F.）」での取り組みはそれとは異なるものでした。佐賀県の行政、児童相談所、教育、指定支援機関、矯正・更生保護の役割を担う少年鑑別所、雇用に関する機関等々といった様々な

関係機関が連携しており、S.S.F.は各施策の連動性を高めるハブ機能を果たしているとのことです。「各種総合相談窓口を S.S.F.が受託運営することで縦割りを打破し、本来の意味での『ワンストップ型』に近い相談サービスを提供している」と説明されました。多重困難を抱えるケースも多く、「導入段階から多職種連携を前提としたチーム対応が必要」と話されました。S.S.F.では精神保健福祉士以外にもありとあらゆる有資格者が在籍しそれを可能としています。「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない。声なき SOS を見逃さない。必要なものは『協働』で創り出す！」と「誰もが希望を抱くことができる地域づくり」も大切にされています。谷口氏は多くの政策提言にも携わっていらっしゃるそうです。日々の私たちの取り組みも診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬といった仕組みに足を縛られている現状があるかもしれませんが、「各分野の施策を連動させシナジー効果を生むための具体的な仕組みを整えることが重要」とのことです。

谷口氏はこうしたお話をこれまでの実践を元に話されました。それだけに説得力のあるもので、また一人ひとりをきちんとアセスメントし、戦略的に緻密に丁寧に支援を組み立てていかれるその鮮やかな手法には脱帽する思いというのが正直なところでした。後半のグループワークでもその行動力の凄さへの驚き、衝撃的なエピソードの数々に圧倒されたという声、「自分たちに同じことができるだろうか」という思いが多く聞かれました。ですが、ソーシャルワークの原点という意味で私たちの日々の実践と共通する内容です。いろんな人を巻き込み、点を網の目のようにつなげて面へとしていく。家族全体を考えかかわっていく。つい相談に来られるのを待ってしまっていないか？縦割りに限界を感じて立ち止まってしまっていないか？そうした自分の実践を振り返り、自己批判、相互批判ができるのが私たちソーシャルワーカーのはずです。谷口氏の熱さと冷静さを兼ね備えた姿勢、支援の組み立て方、社会への働きかけなど、様々な観点から学ぶことの多い研修会でした。

(京都府支部担当 下村)

【リレー職場紹介】



京P子ちゃん

今号は「京都駅前メンタルクリニック
バックアップセンター・きょうと」の
藤井朋広さんです。

Q1.入職したきっかけと職場のことを教えてください！

京都駅前メンタルクリニックバックアップセンター・きょうとは、うつ病・気分障害・ストレス関連疾患と診断された方で、職場復帰を目指している方のための専門プログラムを提供するリワーク施設です。プログラム内容は、本の要約、病気の振り返りといったデスクワーク、コミュニケーションやストレスマネジメントの講座、プロジェクトチームによるグループ作業などを行っています。

私は、もともと会社員として医療機器関連の研究開発職に従事していました。そこでメンタルヘルスに興味をもち、リワークプログラムを提供する施設で患者さまを支援したいという思いから、PSW の資格をとるために専門学校に入学しました。学校の先生からは「そんなところからの求人は見たことがない」と言われ凹んだことを覚えています。そんな中、今の職場の求人情報をみつけ、採用していただきました。

Q2. 仕事のやりがい・悩み事・嬉しい事などについて教えてください！

当センターは、病気を治すだけでなく、再発予防に重点を置いたプログラムで構成されています。そのため患者さま自身が、自分の物事の考え方や捉え方、コミュニケーションの取り方や対人関係の持ち方の特徴を理解し、必要に応じて修正することに取り組めます。生き方そのものについて再考する、という機会も少なくありません。そういった時間を一緒に過ごし、深く考えていくことが私にとっての大きなやりがいです。また、患者さま自身が気づきを得て、変化していく姿をみることはとてもうれしいことです。

悩みごとといえば、もともと私は内向的で陰キャですので、人と関わる仕事に就いてよかったのだろうか、この仕事に向いてないのではないだろうか、と思うことがよくあります。努力はしましたが、根本的な部分までは変わりませんね（苦笑）

Q3.最後に… 仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

PSW という専門性と、私個人という私的な自分の価値観、さらに他職種のスタッフの支援に対する考えや価値観の違い、そして患者さま自身の思い、それらのギャップで思い悩むことが多々あります。私自身に生じる葛藤を客観的かつ冷静に認識しながら、支援を行うことに難しさを感じています。また、患者さまが抱える問題に目を向けがちになってしまうため、患者さまのよい面をみることも忘れないようにしたいと思っています。

PSW の知識をベースに、私自身が人としての成長を続けていくことが、よりよい支援につながっていくのではないかと考えています。

【役員会議事報告】

2022 年度第 1 回役員会

日時 2022 年 4 月 27 日（水） 19:00～21:00

場所）ZOOM 会議

出席）泉 大石 金井 斉藤 下村 竹林 知名 西村 服田 平山 松本 宮崎

欠席）太田

司会）大石 書記）斉藤

※概要報告はホームページ(会員ページの「役員会・委員会」より)をご確認下さい。

<http://www.kyo-psw.org/archives/1382> (会員ページ ID:kyopsw、Pass: 2020kmhs)

(お詫び)

前号掲載の役員会報告の HP への掲載が遅くなりました。お詫び申し上げます。

【事務局より】

会員の動向

【2021 年度退会】

田之口 智子さん 南條 康代さん 丸木 泰史さん 矢野 響子さん

吉谷 勇祐さん 田中 詩桜里さん 前川 直也さん 家原 あさ美さん

山口 祥恵さん 吉田 理史さん 西澤 心さん 高芝 希さん 松崎 由美さん

榎原 聡美さん 坂根 杏菜さん 林 安子さん 毛戸 菜月さん 茶谷 友一さん

角谷 慶子さん 西田 由佳さん

3 月 31 日現在 298 名

【2022 年度入会】

久木山 信光さん 所属）スクールソーシャルワーカー（久御山町）

岡本 彩加さん 所属）一般社団法人 京都障害福祉サービスセンター

上原 厳さん 所属）京都博愛会病院

丸山 ひなのさん 所属）医療法人博友会 まるいクリニック

村上 貴栄さん 所属）学校法人光華女子学園 京都光華女子大学
健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻

山本 真莉子さん 所属）医療法人三幸会 就労支援センターヒューマンプラス

長谷川 輝晃さん

谷口 瑞季さん 所属）医療法人博友会 就労移行支援事業所 アステッぷむろまち

浦智 恵さん

浅野 梨奈さん 所属）LITALICO ワークス烏丸御池

中西 来さん 所属）一般社団法人いずみの里

新本 尚美さん 所属）社会福祉法人同胞会 イサク事業所どうぼうの家
就労支援事業所 リゴ

川中 まいさん 所属）一般社団法人いずみの里
京都市北部障害者地域生活支援センターらしく

堀田 陽子さん

松井 美樹さん 所属）医療法人三幸会 北山病院 相談室

5 月 25 日 現在の会員数 313 名

1) 京都精神保健福祉士協会 協会 LINE 開設

現在メールのみで協会情報を送信しておりますが、新年度より LINE を併用して情報を発信してまいります。内容はメールとほぼ同様で、基本的には配信のみとする予定です。ぜひ登録をお願いいたします。

<https://lin.ee/zQgdu5c>



2) 新入会キャンペーンについて

前年度に引き続き、今年度 4 月～12 月までに入会された方は会費を¥3,000 といたします。お近くの方・新たに入職された方などにお声をかけ下さい。よろしくお願いいたします。入会申請書は協会ホームページよりダウンロードしてください。

【ほっと一息コーナー】



先日西京区にある大原野神社に行きました。大原野神社は、奈良県にある春日大社の祭神を分祀された神社です。境内の至る所に鹿が祭られおり、狛犬ならぬ狛鹿がいる事が印象的でした。

おみくじやお守り、絵馬に関しても鹿のキャラクターが描かれており、非常に可愛いデザインで購買意欲を掻き立てられます。境内には、今の時期、青もみじや睡蓮の花が見ごろを迎えておりとても癒されます。

大原野神社の向かいにお茶屋さんがあるのですが、毎年ヨモギの収穫時期限定で草餅を販売されています。実は何度か行っているのですが、臨時休業の為、未だに買えません。残念でたまりません。お店に振られれば振られるほど次回こそは必ず！との気持ちになりますね。

訪れるにはやや不便な立地ですが、癒しが必要な方や草餅がお好きな方にはおすすめの場所です。(吉田)



【編集後記】

30 代になり少しは身体に良い事をしようと思いこの 1 か月ほど毎日納豆を食べています。今のところ体調に変化はありませんが、コツコツ続けていこうと思っています。(吉田)

私も 30 代に入ってから体力低下が顕著になり、このままではいけない、健康のために 1 駅歩こう、マンションのエレベーターでなく階段を使おうと思い立ったものの、全く実践できておりません。まず行動に移すところからです… (北山)